

■リトアニア：2050 年末までに供給電力量の 80%を再生可能エネルギーに

リトアニアのエネルギー省は 2017 年 6 月 21 日、「新国家エネルギー戦略」（以下「戦略」）を発表した。それによると、2050 年末時点で全供給電力量を国内の電源で賄い、そのうち 80%を再生可能エネルギーによる電力にするとしている。また、クライペダの LNG 基地がポーランドやウクライナ向けにガスを供給すること、国内の電力網を EU のそれと接続することも重要な課題としている。リトアニアは現在、供給電力量の約 70%を輸入しており、供給電力量のうち、2020 年には 35%、2030 年には 70%、2050 年には 100%を、それぞれ国内の電源で賄うという方針が盛り込まれている。2020 年末時点の風力発電設備容量については、現時点で決まっているものに 25 万 kW を追加し、風力発電を電源の柱とし、ガス火力は漸減するとしている。また、「戦略」では、計画が中断しているビサギナス原子力発電所については触れられていない。